

【高等学校用】

令和2年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	佐賀県立白石高等学校
1 前年度 評価結果の概要	<p>【普通科キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習指導に関して、種々の手立てを講じてきたが、学力向上のための効果的な方策については改善の余地が残っている。 進路指導について、学習指導とキャリア教育を効果的に展開してきた。生徒の多様な進路実現に向けて、両キャンパスの連携も含めて多くの方策を推進していかねばならない。 新高校として、両キャンパスの連携やそれに伴う組織の改革、行事の変更等を行ってきた。課題の残る分野の修正を早期に進めていかねばならない。 「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」を中心として、2つのキャンパスを有する新しい魅力ある学校づくりをなおいっそう推進していかねばならない。 <p>【商業科キャンパス】</p> <ul style="list-style-type: none"> 校舎制による高校再編が進む中、学校運営にも様々な変化があった1年間であった。来年度より学校評価も変わるためその結果をどのように活かして、P D C Aサイクルをきちんと回していくのかを検討する必要がある。 新しい事業である「地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト」については、公募の中から「夢T∞Tプロジェクト」という名称が決定し、計画通り実施できている。ルーブリック評価や学校評価の結果も踏まえながら、より一層魅力づくりに励みたい。 進路指導に関することや保健指導に関することなどは、例年同様充実した取組を行い、目標を達成している。また、生徒指導部の粘り強い指導により、S N S絡みの指導案件も減った。来年度も個々の生徒に対応して、じっくりと丁寧に指導を行う。
2 学校教育目標	<ul style="list-style-type: none"> 高い志と進んで責任を遂行する強い意志を持ち、社会に貢献できる、知・徳・体の調和の取れた心身ともに健全な人材を育成する グローバルな視点を持ち、地域に愛され、信頼される生徒を育成する
3 本年度の重点目標	<p>①校舎制による円滑な学校経営(教職員の連携協力体制の確立、普通科キャンパスと商業科キャンパスの教育活動の工夫・改善、タイムマネジメント)</p> <p>②高校魅力づくりの推進(多様な進路希望に応じた進路指導の充実、ICT機器を活用した主体的な学習、部活動・国際交流・ボランティア活動の活性化、地域とつながる高校魅力づくりプロジェクトの継続と発展)</p> <p>③防災教育(台風・大雨・地震・感染症の災害を想定した生徒の安全確保、日ごろからの活発なリスクコミュニケーション)</p>

4-1 普通科キャンパス 重点取組内容・成果指標				5 最終評価		主な担当者		
(1)共通評価項目								
評価項目	重点取組 取組内容	成果指標 (数値目標)	具体的取組	達成度 (評価)	最終評価 実施結果		学校関係者評価 評価 意見や提言	
●学力の向上	○個別の進路希望に応じたきめ細かな進路指導と面談指導及び進路ガイダンスの充実	○キャリア教育アンケートの「進路について考えることができた」「ある程度できた」と回答した生徒の割合97%以上にする。	・一月につき一回程度の割合で進路行事や個人の取り組みに対するアンケートを実施し、その結果を次の行事や面談に反映させていく。	C	・キャリア教育アンケートの「進路について考えることができた」「ある程度できた」と回答した生徒の割合は96.6%だった。コロナ禍で行事が次々と中止になる中で、独自の行事を設定するなどの工夫を行った。しかしながら、大切な指導の一つである個人面談が十分ではなかった。職員の見直しも急務である。	B	○受験の教科指導だけでなく、生徒の将来を見据えたキャリア教育の側面を取り入れて「進路指導」を展開している点は評価できる。コロナ禍で生徒も職員も十分な対策が施せなかったのは残念である。職員自身の資質向上にも絶えず取り組んでほしい。	・進路指導部
	○主体的に考え、行動する力を育成するためにICT機器を活用した授業に取り組む	○ICTが「学習に対する意欲や学力の向上に役に立っている」と回答する生徒が90%以上を目指す。	・効果を高めるために、教師がICTを使った授業の効果的な提示・展開・記録などの方法を共有する。 ・生徒が必要な情報を収集したり、繰り返しの学習によって知識を定着したりしやすいようにする。	B	・オンライン授業に備えたICTの活用について研修を2回行った。 ・生徒は、Classilによるポートフォリオ作成を1回、および、総合的探究の時間で必要な情報を集める作業や知識ならびにプレゼンテーションを行うことができる。	A	○オンラインによる授業への取組は、緊急時には非常に有用な授業形式であることは言うまでもない。今後もさらに取り組んでほしい。ICT活用を通して子供たちに種々の教育の機会を提供して欲しい。	
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○各学期に、1回以上はホームルーム活動や講演会等を通して心の教育の実践を図る。また、地域への理解をすすめ、郷土を愛する心を育てる。	・ボランティア活動やテーマごとの講演会を開催し、重いやりや人間性豊かな生徒の育成を図る。また、佐賀のことを学ぶ時間において、白石や佐賀のことについて理解を深めるとともに、伝統行事への参加や郷土料理実習などの体験の機会を設ける。	B	・教育相談の事業については概ね計画通りであった。 ・佐賀のことを学ぶ時間の取り組みを通して、郷土についての認識を深めることができた。 ・学校の重点目標である「防災教育」の展開について足掛かりはできた。来年度はさらに積極的に展開していきたい。	A	○授業のみならず、子供の心身の発達に十分尽力してもらっている。郷土愛の醸成や防災意識の高揚に今後も取り組んでほしい。	・保健指導部 (教育相談) ・教務部 ・副校長
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○いじめ防止等について組織的対応ができていると回答した教職員の割合が70%以上	・いじめアンケートを年2回以上実施し、対応研修会を年2回実施する。 ・学年団、生徒指導部、教育相談での連携連絡会議を学期に1回以上開催する ・生徒会での啓発活動を行う。	B	・今年度は5件のいじめの認知報告をした。そのうち3件はアンケートにより発見できたものであった。幸い5件とも重症化にはつながらずにすんだ。また、いずれも組織で早急に対応ができたと思う。 ・来年度は、生徒会の啓発活動を積極的にやりたい。	B	○いじめ問題に迅速に対応してもらっていると評価する。いじめ防止には子供の健全な発達が欠かせないので、防止策を講じるだけでなく、生徒への種々の活動の提供をお願いしたい。	・生徒指導部
	○人の意見を受け入れ、共感できる心を持ち、自分の考えを発信する力(ボランティア活動、スピーチ力)を養成	○校外学習や探究の時間の学習において、協働学習による研究や学習を1項目以上取り組ませる。	・地域とつながる高校魅力づくりプロジェクトや、校外でのキャリア教育における学習において、協働学習による学習や研究に取り組ませる。	A	・総合的な探究の時間に生徒自身がリサーチした課題について、解決策を提案した。その内容について、1年生はグループでプレゼンテーションを行い、2年生は個人でプレゼンテーションを行った。ICT機器を使用しながら、視覚的にも効果的に情報を発信することができた。	A	○地域貢献、地域活性化に取り組むことが今日の教育の活性化に貢献していることが理解できる。ICTを効果的に活用し、SDGsやSociety5.0の諸問題にも取り組み、子供たちの経験値の獲得に取り組んで欲しい。	・総合的な探究の 時間担当 ・副校長
●健康・体づくり	①「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」 ②「安全に関する資質・能力の育成」	①「健康に食事は大切である」と考える生徒90%以上 ②生徒の交通事故を0(ゼロ)にする	・食生活アンケートの実施。 ・食育だよりの発行。 ・交通講話を実施する。	A	・食生活アンケートの実施、食育だよりの発行など健康管理の啓発を行った。 ・交通講話を1学期に白石警察署員を招いて実施した。	A	○心身の健康があつての教育活動の充実であるので、今後も積極的に取り組んで欲しい。	・食育担当 ・生徒指導部
	○質の高い授業と行事・部活動のバランスを目指す	○校外の教科研究会や研修会に参加する職員60%以上	・ICT活用教育を含む、先進的な教科指導を研究し、カリキュラム研究と合わせて授業活性化につなげる。	C	・コロナウィルス対策により多くの研究会、研修会が中止になった。オンラインでの研修が増え、職員が参加しやすい環境を確保しなければならぬ。	B	○本年度はコロナ禍で出張用務や職員研修ができなかったことは理解できる。オンライン研修も増えてきているので、効果的な研修の展開に期待する。	・副校長
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の設定 ・産業医面談の推進	A	・部活動については、コロナの影響で自粛もあり、活動の在り方を考える1年となった。また学校閉庁日や長期休業中の休暇取得も例年より進んだ。	B	○定時退勤日の設定や、学校閉庁日を設定して、職員の働き方改革を推進していることは理解できる。業務量の平準化や、行事の精選、ICTの積極的活用等を行って、充実した効率の良い用務の遂行に努めて欲しい。	・副校長
	○教職員の連携協力体制の確立・普通科キャンパスと商業科キャンパスの教育活動の工夫・改善	○両キャンパスの年間行事で、合同で実施する場合の円滑な運営のために、連携会議を年間6回以上実施する。	・メールやオンラインを活用し、適宜かつ迅速に意思の疎通を図り、行事や用務の精選と共有、工夫、改善を図る。 ・分掌、教科、学年で毎月1回以上共同での会議を開催する。	B	・両キャンパスの連携協力体制は未だ確立できていない。来年度に向けて、分掌再編に取り組んできた。効果を期待したい。	A	○キャンパスが離れており、教育課程も異なる中、学校の教育活動を円滑に行う連携の模索は困難があると思う。西部地区の中心校として今後の活躍に期待する。	・副校長

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目						主な担当者		
重点取組			具体的取組	最終評価			学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果		評価	意見や提言
○高校魅力づくりの推進	◎Think globally, act locallyのスローガンのもと、地球規模で物事を考え、それを佐賀や地域に結びつける教育活動	◎キャリア教育、探究の時間、地域とつながる高校魅力づくりプロジェクト、海外研修や校外学習における活動のポートフォリオの蓄積項目3つ以上	・生徒へのプログラムの周知を図り、自発的に参加できるよう、情宣と事前研修を積極的に行う。	A	・地域とつながる高校魅力づくりプロジェクトは、2年目となり、活動に系統性が出てきた。しかしながらコロナ禍の中、フィールドワーク等思い切った取り組みができなかったが、生徒のポートフォリオには参加3つ以上は実現できている。今後もキャリア教育や総合的な探究の時間と運動させて、効果のある教育活動としてさらに取り組んでいきたい。	A	○プロジェクトの活動が軌道に乗り、その活動については、報道等でもよく取り上げられており、アピールもよくできている。 ○学校のみならず、地域の活性化の起爆剤として、今後も積極的に展開していってくれることを望む。	・地域とつながる高校魅力づくりP担当 ・副校長
○防災教育	○専門家を通して地域の現状を知り、様々な災害を想定して命を守るシミュレーションを実施する	○防災意識が高まったとする生徒70%以上	・通常の避難訓練や防災講演会に加えて、探究の時間や地域とつながる高校魅力づくりプロジェクトの課題としても取り組ませる。	A	・防災講話やフィールドワーク等、コロナ禍の中でも実施できたことは評価できる。防災意識も生徒に浸透しつつあるが、アンケート等での周知に関する評価ができていない。	A	○防災意識を高めていくことは、地域社会のみならず、学校でもとりあげていく必要を認識している。さらなる教育活動上での展開を期待する。	・生徒指導部 ・副校長

4-2 商業科キャンパス 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目						主な担当者		
重点取組			具体的取組	最終評価			学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果		評価	意見や提言
●学力の向上	○個別の進路希望に応じたきめ細かな進路指導と面談指導及び進路ガイダンスの充実	○進路決定率100%を目指す。 ○3年生は年1回、1・2年生は年2回の進路に関するガイダンス等を実施し、進路意識の向上を図る。	・基礎力診断テストや各種模試を実施し、生徒の進路目標への到達度を確保させる。それを踏まえ、生徒に応じた小論文指導・面接指導等を計画・実施し、生徒の希望に対応した進路指導に取り組む。	A	・2月に3年生就職・進学合格内定率が100%となった。また1、2年生に対して進路セミナーと進路ガイダンスを実施し、アンケート調査した結果、98%程度の生徒が職業理解が深まり、進路意識が高まったとの回答を得た。	A	○しっかりと進路指導が行われており、例年通り内定率100%と、大変すばらしい結果となっている。	進路主事
	○主体的に考え、行動する力を育成するためにICT機器を活用した授業に取り組む	○年間2回を目標に、全クラス一斉に「ICT機器活用100%」の授業を実施する。 ○臨時休校が生じた場合、実施可能な授業でオンライン授業を実施する。	・オンライン授業に必要な知識・技術について全職員対象に研修を実施する。 ・積極的にICT機器を活用した授業に取り組む。	B	・1・2年生は年間目標を達成し、一斉に授業実施する「ICT機器活用100%」の授業を実施することができた。 ・2学期以降オンライン授業を実施する機会がなかったが、ICT機器の環境整備は充実できた。	A	○今年度は、オンライン授業が実施できる体制が構築されたこと。今後の状況にも適切に対応して、学びを継続できる準備をしてほしい。	ICT推進リーダー
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○社会で役に立つ挨拶や身だしなみ、相手を思いやる会話やマナーを身に付けさせる。 ○月1回の服装検査を実施する。	・学年団と連携した指導に取り組む。 ・講演会等の集合時間の厳守や、話を聞く態度を育成する。	B	・10月以降、大きな問題行動もなく多くの生徒達がしっかりと落ち着いた学校生活を送ってくれていたようだ。今後は、小さな達成感の積み重ねから大きな自信が育成されることを願っている。	B	○生徒の状況は大変落ち着いているようである。今後社会に出る生徒たちに、しっかりと指導を継続してほしい。	生徒指導
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	○年間2回、生徒との個別面談を行う。 ○年間2回、いじめのアンケートを実施する。 ○問題の把握当日に対応を行う。	・QUTテストの活用により生徒の状況を把握し、個別面談の充実を図る。 ・面談週間を活用し、生徒個人や生徒間の情報収集を計る。	B	・生徒間でのいざこざやいじめなどを把握するためにアンケートを実施し、実態把握に努めた。 ・教師が気になったり、生徒からの申し出には迅速に対応し、担任を中心とした対応ができた。 ・気になる事案はSCの協力を得て対応を行ったところである。	A	○いじめの認知件数が増加しているが、いち早くいじめを把握し、解決につなげるというのは良い取り組みである。	教育相談担当
	○人の意見を受け入れ、共感できる心を持ち、自分の考えを発信する力(ボランティア活動、スピーチ力)を養成	○地域とつながる高校魅力づくりプロジェクトを通じて地域との交流活動を推進し、地域のニーズに応じた活動を実践する。	・生徒にボランティア活動の内容について意見を募り、計画・実施を行う。 ・文化祭などの行事の中で、スピーチコンテストなどを実施する。	B	・12月に、全校生徒で、校内清掃活動を行った。また、定期的に、希望者を募り、近隣の商店街でのごみ拾い活動を実施することができた。来年度は、全校生徒で協力して地域のボランティア活動に参加していきたい。	B	○今年度は、新型コロナウイルス感染症の関係で、十分な活動ができなかったとのことですが、引き続き地域連携の意味も含めて取り組んでいただきたい。	生徒会
●健康・体づくり	●望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成	○「健康に食事は大切である」と考える生徒の割合を80%以上にする。 ○食事と健康・肥満等との関係を理解する生徒の増加を目指す。	・食と健康について保健だよりの発行を行う。 ・アンケートによる意識調査を行う。	B	・毎月一回「保健だより」を発行した。その際、生徒が興味関心を持てるような内容やレアウトにするなど工夫を行った。休校の影響が例年と比較してう歯を持つ生徒が増加したため、検診結果を個別に返却すると同時に歯科指導を行うことで生徒へ注意喚起を促すことができた。 ・食への関心や理解については、教科・科目を通して高まった。意識調査に於いても殆どの生徒が食の大切さを認識しているが、家庭環境等様々で、実態が伴っていないのが現状である。	B	○定期健診の実施が何度も変更されたりと大変でした。 ○食育教育については、青年期の生徒達には重要な内容であり、しっかりと取り組んでほしい。	保健主事
	○質の高い授業と行事・部活動のバランスを目指す	○可能な限り自習時間をなくすとともに、各教科の授業実施率を平準化する。 ○放課後の時間帯の活用について、意識した取り組みを行う。	・出張予定を速やかに把握し、時間割の振り替えに反映させる。 ・合同行事について、早めに実施要項を作成し職員への周知を図る。 ・スクールバス運行時間や方法について、迅速に対応し活用を図る。	A	・合同行事の実施や入試関係の会議実施のため特別時間割を組み対応した。授業時間を確保するために短縮授業を行った。行事の実施要項については迅速な対応を心掛けているが調整や検討に時間がかかることもあった。スクールバスの運行については時間調整等も良好である。	A	○両キャンパス間の合同の行事などが縮小された点は残念であった。 ○両キャンパスの融合のためにも、しっかりと連携で取り組んでほしい。	教務主任
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校時間の上限を遵守する。	・ICT機器を活用した業務改善に取り組むとともに、行事の精選等による業務の削減を行う。また、個々の職員が勤務時間や業務効率を意識した働き方を実践する。	A	・コロナウイルス感染症の関係もあり、業務の効率化、最小化が図られた。 ・在宅勤務やオンライン授業など、今後につながる取り組みとなった。	A	○教職員の連携により、新たな業務フローや学びのスタイルが確立された。 ○今年度削減されたものをそのまま再開するのではなく、次年度以降も、業務量を考え取り組んでほしい。	副校長
	○教職員の連携協力体制の確立・普通科キャンパスと商業科キャンパスの教育活動の工夫・改善	○両キャンパスの年間行事で、合同で実施する場合の円滑な運営のために、連携会議を年間6回以上実施する。	・月に1回程度、普通科・商業科CPとの連絡調整を行いながら、2か月程度を見越した連携会議を実施し、両キャンパス合同行事等の円滑な実施を図る。	A	・主要な学校行事や新規事業に関する連絡調整を行うことができた。ただし、運営委員会や職員会議が開催されるタイミングの違いにより、調整が困難な事柄も多数出てきた。校務分掌間でのさらなる調整が必要になると思われる。	A	○説明にあったように、両キャンパスの意識を統一し、両キャンパスの活性化につながるよう取り組んでほしい。	主幹教諭

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目						主な担当者		
重点取組			具体的取組	最終評価			学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)		達成度(評価)	実施結果		評価	意見や提言
○高校魅力づくりの推進	◎Think globally, act locallyのスローガンのもと、地球規模で物事を考え、それを佐賀や地域に結びつける教育活動	○年間3回チーム会議を開催し、PDCAサイクルにより取り組みを充実させる。 ○ワーキンググループ(WG)活動について情報を整理し、当事業に位置付けながらブラッシュアップを図る。 ○活動内容について、地域に周知を図り、本校の教育に対する理解を促進する。	・コーディネーターと連携し、1年間を見通したプランを作成・実施する。実施後、検証し、次のプランに活かす。 ・従来の取り組みについて情報を収集、整理すると同時に、チーム会議やWG活動を通して、外部の意見を取り入れながら実現可能な取り組みを計画に反映する。中間報告会を実施するために令和元年度、令和2年度前半の取りまとめを行う。 ・プレスリリースやHPでの案内など広報活動を充実させる。	A	・校務分掌や教育課程上の取り扱いにおいては、一定の進歩があった。 ・地方自治体との取り組みにおいても、今までにない協力関係を構築し、生徒の「自己肯定感」向上に役立てることができた。 ・総合的な探究の時間やキャリア教育を横断的に取り込んだ体制と、教育課程上の授業のみの体制では明確な差が出ている。 ・モデル校として最終年度である「令和3年度」は、事業終了後の校内体制を準備することも必要になる。 ・企業連携型の関係再構築も課題となる。	A	○今年度の取り組み内容については大変充実している。 ○来年度が最終年度となること、地域とのしっかりとした関係を構築してほしい。	企画部
○防災教育	○専門家を通して地域の現状を知り、様々な災害を想定して命を守るシミュレーションを実施する	○防災訓練、避難訓練を1回以上実施する。 ○防災意識が高まったとする生徒の割合を70%以上にする。	・火災・震災・その他の災害の予防及び人命の安全並びに災害の防止を認識させる。 ・消防署に指導を依頼し、防災避難訓練をおこない対応策を学ばせる。	B	・12月に巨大地震からの火災発生を想定した避難訓練を実施し、各クラスから数名は救助袋を使った体験避難をおこなった。また、専門家から自らの災害ボランティア体験談を話してもらった。	A	○昨年の豪雨の記憶も新しいところである。 ○地域とともに防災教育に確実に取り組んでほしい。	生徒指導

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	○今年度は、新型コロナウイルス感染症対策のため、教育活動が大きく制限された。その中で、オンライン会議システムを活用した授業やキャンパス間の会議等これまでにない取り組みを行うことで、学習活動やキャンパス間の連携など新たな取り組みの可能性が広がった。 ○再編統合後の新しい学校作りの第2ステージとして、ランドデザインの策定、カリキュラムや校務分掌の見直しを積極的に行っていく。 ○学校の教育活動の展開において、コミュニティスクール構想やGIGAスクール構想を積極的に取り入れ、時代の要請に見合う生徒の育成に努めていきたい。
----------------	---